



No.115 2011. 9

発行 真言宗豊山派  
北田山宝泉寺  
所沢市北岩岡130  
編集 色摩真琴

## 空海と 密教美術展

うっすら秋の匂いも感じられるようになった9月某日、上野国立博物館で開催されている「空海と密教美術展」(以下「空海展」)に行きまして。7月の開催から多くの反響を呼んでいるようで、私が訪れた日も開館一時間後にして入場まで40分待ちという人気ぶりでした。

この「空海展」はその名の通り真言宗の開祖である「空海」ゆかりの品々が集められていて、「密教美術 1200年の歴史の最高峰」と主催者が宣伝するように量、質ともに大満足。とても見応えのある展示会でした。

なかでも私の心をゆさぶったのが空海24才時の処女作であり日本最古の戯曲形式の書物といわれる「聾瞽指帰(ろうこいき)」や、最澄との往復書簡である「風信帖(ふうしんじょう)」などの空海の真筆です。空海の実際の活動を目の当たりにし、彼がどんな思いでそれをしたためののか、そんなことを想像していたらウルウルときてしまったのは内緒です。また、隣にいた見ず知らずの方々が「空海って本当にすごいね〜」、などと感想をつぶやかれるのを耳にし、なぜか私が誇らしい気持ちになってしまいました。

「空海展」は9月25日までの開催です。もし、これから出かけてみようという方にアドバイスを一つ。上段から私たちを見守って下さいという願いから、ほとんどの仏様は少し伏し目がちに作られています。お寺で拝む仏様は、ちょうど見上げる私たちと目が合う高さに祀られていることが多いのですが、展示会ともなるとそういきません。今回も低い位置に置かれている仏様が多くいらっしゃいました。ですので皆さんがご覧になる場合は少し背をかがめて、仏様と目を合わすように楽しんでください。きっと他の方とはちがった趣を感じられますよ。

(了)

# 平成23年 るりの会

毎年お盆が終わりその後片付けが終わると、心は次のお泊まり会に移ります。今年もまさに残暑厳しい9日の夕刻、34名の子達がやってきました。大人と子どものバトル?の始まりです。細かいプログラムがあるわけでもなくさらに男女を含めた異年令集団、わずかな時間ですがそれぞれ強烈な個性が発揮されました。しかも毎年違う姿を示してこちら側の興味も尽きません、たとえば大縄跳び、去年とは違う遊び方をしています。また大師堂の一角においてあった車いすもお互いが交替して遊ぶ道具になっていました。将来はおじいちゃんやおばあちゃんを押したりするのかな、なんていう想像も。この数年、我が家の娘も友人を引き連れ手伝いにやってくるのですが、女子の部屋では夜遅く彼女らを布団に引き込み、なにやらお話、ちょっと大人っぽい話もみんなうれしいようなのです。ご父兄のお一人に文章をよせて頂きました。

## お泊まり会

荒幡由美子

小学生夏休み行事の一つ寶泉寺境内でのラジオ体操、毎年のこと体操終了後は本堂でのお経です。

その子ども達が、お寺のお泊まり会に参加させていただきました。9月10日の朝お迎えに行くとき境内で走り回って遊んでいました。最後のお勤めをする頃はとても眠そうな顔をしていましたが、最後まで一生懸命お経を読んでいました。

ご住職からのお話で、肝試しが怖くて泣いている子や、ちょっとしたいさかいから泣いている子に、優しい声をかけてあげる子がいるということをお聞きし、子ども達の成長を感じることができました。

このお泊まり会がなければ学年の違う子ども達が一緒にご飯を食べ遊んで、同じ部屋に寝るといった機会は滅多にありません。学校や家庭と違った経験をすることができ、子ども達には良い思い出となりました。

我が家の3人も家に帰ってから一斉に楽しかったことを話し始めました。ただ残念なことに3人とも肝試しには参加しなかったようですが・・・

短い時間とはいえご住職、副住職、奥様や他のスタッフの皆様、それと肝試しにお化け役をしてくれた卒業生の皆さんに感謝いたします。

これからも子ども達の成長を一緒に見守って下さい、どうぞよろしくお願いたします。

## 東日本大震災、半年を迎える

3. 11、大震災後、毎月11日、午後2時46分には住職か副住職が震災犠牲者追悼回向を捧げており、今月11日には副住職が御回向いたしました。寶泉寺ではその際、震災犠牲者への御塔婆供養を檀信徒の皆様からお受けし、塔婆料は日赤経由の義援金に充てております。墓参の折などにどうぞお申し出下さい。

さて被災地、瓦礫処理もスピードアップしたようですが、今後の住宅地や産業地域など土地利用の構想などはまだまだのようです。今後の百年、2百年の時の流れを考えると慎重にならざるを得ない面もあるかと思えます。いずれにしても被災地にはまだまだ物心両面の多くの支えが必要ですし、今後は支援の内容も徐々に変えていかなければならないのでしょうか。

ところでその支援の一つとして、5月の大般若会のご案内に祈願料相当額を震災の義援金にする旨をお伝えしました。そしてその経過を前号の「るり光」でお伝えすべきでしたが失念してしまいましたので、ここにご報告いたします。6月15日、祈願料相当額、43万2千円を寶泉寺所属の真言宗豊山派に寄託いたしました。

派内にも多くの被災寺院があり、宗派内で対策が検討実施されておりその財源にというものです。特に福島原発地域には寺院数も多く、本堂やお堂など境内建物や仏具類にも大きな被害が報告されています。今でも檀信徒はもちろん住職の家族も全国各地に避難中でお寺の護持、本来の宗教活動が全くできずにいるというのが現状です。檀信徒の動静の把握もままならない、まさに各自治体が住民の把握ができないことと同じ状況でもあるのです。自治体の地域復興と同じく宗派には檀信徒の生活も含めた寺院復興が今、求められています。

このところ危険地域への一時帰宅の映像が流れますが、お位牌や数珠を大事に持ち帰る場面を目にします。このような篤い心がなお一層事故の深さを際立たせているように私には思えてなりません。

## ホームページを開設

寶泉寺のお嫁さんが、育児休暇の間を見てコツコツと寶泉寺のホームページ（以下HP）を作ってくれました。お寺のHPらしく、しっかりとできあがっています。寶泉寺の紹介、行事や催しもののお誘い、なかなか更新されない副住職の日記など見所満載(?)です。また、この「るり光」もHPから見ることができます。なお、問い合わせフォームというものも設置してしまいましたので、どのようなことでもお気軽に書き込んでください。ご笑覧の程を。

## 御詠歌お唱えしませんか

御詠歌（ごえいか）とは、仏さまの教えを旋律に乗せてお唱えする仏教唱歌のことで、なかでも、三十一文字（みそひともじ＝五・七・五・七・七）の和歌にメロディーをつけたものを「詠歌」といい、七五調のものを「和讃（わさん）」といいます。一般的には、これらを総称して「ご詠歌」とよんでいます。

たびたび、この紙面でも登場する「声明」と何が違うかといえば、「声明」は様々なお経に節をつけて唱える僧侶しか歌えない仏教音楽なのに対し、「御詠歌」は易しく説かれた仏様の教えを歌詞とし、メロディーも親しみやすく誰もがお唱えできるというところでしょうか。

実は、数年前まで宝泉寺でも住職によって御詠歌の講習会が月2回ひらかれていました。時代の流れで現在は休止していますが、この1年半一生懸命(?)御詠歌を習っている副住職が来年の春に久しぶりに宝泉寺に御詠歌の調べを復活させようと企てております。

また、その日が来ましたら皆様にご案内致します。仏教にふれたい方、歌うのがお好き方、どうぞお楽しみに。

## 長谷寺団参のお誘い

当初、6月に行く予定だった団体参拝ですが、震災の影響もあり、10月の2～4日に変更となりました。一度は8月末に締め切ったものの、まだバスのお席には余裕がございますので、この機会に長谷寺に訪れたいと言う方は是非お申し込みください。実は毎回参加者を募ることに苦しいしております。どうぞ是非もう一度ご検討を願いたいと存じます。

普段は見ることのできない長谷寺をご案内致します。

NPO 法人

颯の扉 バザー

9月23日（金）

10時～3時半

宝泉寺境内

編集後記

今年も挽き立てのコーヒー、焼きたてのマドレーヌ、クッキーをお持ちしておじゃま致します。

▲雷が寶泉寺に。7月末のある夜、今までにない怖さの雷鳴を聞いた。境内の樹齢約80年のサワラの木に（昔は桶の材料）、根元まで真二つだった。何事もなく良かったが、いつの世も怖いのは地震、雷、火事、〇〇〇か。今年はずくにその感を強くした。

▲ころころ替わる政権、今度はドジョウ内閣だという。ドジョウは特殊な呼吸機能を持っているので、時にしぶとい生命力を発揮する。

小僧が野山を駆け回っていた頃の話だが、秋

も遅く干上がった田んぼの用水の泥の中で生きているのを、何度も見ている。この生命力を発揮してもらいたい。1年交替の政権なんて良いも悪いも言いようがない。

▲11日はアメリカ同時多発テロ事件10年目の日、戦争は次々に新しいテロを生み出してしまった気がしてならない。甚大な戦費や犠牲者のことを考えると、後遺症はあまりにも大きい。